

■「令和の里海づくり」モデル事業における取組

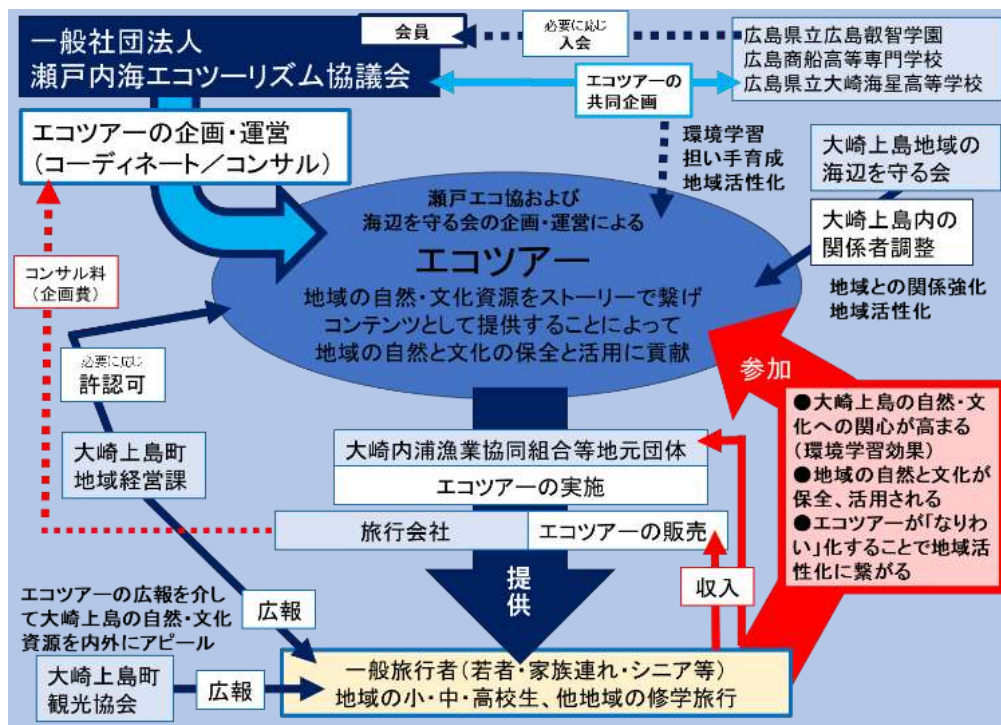
活動地域：大崎上島（広島県大崎上島町）

活動団体：一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会

モデル事業概要	
採択年度	2022（令和 4）年度
モデル事業	大崎上島町漁業協同組合による①藻場・干潟再生、②毎週実施している「朝市」の 2 つの取組を地域の資源と捉え、それらを観光の視点で繋ぎ、活動を継続化と地域活性化への寄与を目指す。 具体的には、環境学習（担い手育成）の観点から、地元漁協や「大崎上島地域の海辺を守る会」と連携し、地域の学生を対象としたエコツアーを企画・運営した（今後自走化に向けた取組を実施）。
背景	
地域の資源	【自然】 ◇ 瀬戸内海国立公園（神峰山（かんのみなやま）地区） ◇ 温暖少雨な気候 ◇ 瀬戸内海の多島海景観 ◇ 瀬戸内海のほぼ中央に位置している広島県内唯一の離島の町で、大崎上島、生野島、長島、契島などから成っている ◇ 生野島の月の浦をはじめ周辺海域は、アマモの群生地 【海産物・食】 ◇ 刺網漁や船釣りによる豊富な海の幸 ◇ みかんやレモンといった柑橘類のほか、ブルーベリーやトマト、しいたけなど色々な農産物を生産 【歴史・文化・町並み】 ◇ 大崎上島の神峰山の山頂には、行基上人の作といわれる如来像安置の薬師堂があり、山頂からの展望は雄大 ◇ 造船業や非鉄金属業などの工業も、古くから基幹産業として発達 【アクティビティ】 ◇ 200 年以上の伝統を誇る「櫓伝馬（かいでんま）体験」 ◇ アマモ場で海の生命について学ぶシーカヤック体験、刺網漁や船釣り、波止釣り等
地域の課題	◇ 近年の地球温暖化に伴う異常な海水温上昇等の影響により藻場面積の減少や干潟機能の著しい低下により漁獲量が大幅に減少したために漁業者や漁業経営体の廃業が顕著。 ◇ 埋め立てによる干潟面積とアサリの生息量の減少で潮干狩りが実施できなくなっ

	たことなど、離島でありながら地元の魚を島で食せない状況にある。 ◇ 大崎上島町の持続可能な漁業のためには漁場環境（藻場・干潟等）の保全・再生が喫緊の課題。
令和の里海づくり（保全と活用の好循環形成）	
好循環形成のビジョン	
（保全） ◇ 大崎上島町および漁業者は、2018 年度から「自然育養型の漁場化」と、「島周辺及び隣接海域に密接する干潟・藻場の成育海域（海のゆりかご）」による藻場・干潟の再生の取組を実施している。 ◇ 「大崎上島地域の海辺を守る会」を設立。	
（活用） ◇ 里海の恵みである地元の魚を島民に食してもらう「朝市」、「漁師祭り」などの取組を展開。 ◇ 島の子供たちに里海を身近に感じてもらうため環境学習も実施していく。 ◇ 水産業及び関連業態の振興による地域全体の魅力向上と、観光客の誘客と滞在型観光を促進する地域づくりを目指して、エコツアーやエコツーリズム・フォーラムを展開していく。	
（好循環形成・促進） ◇ 地域の好循環に資する諸資源を相互に関連づけて総合的に推進していく（人材・交流・交通・情報発信・流通・拠点・漁場・干潟の保全と資源活用）。 ➤ 四季を通じたエコツアー等のプログラムの造成と商品化を目指し、地元バス会社と漁協や観光協会とを繋ぐ活動を実施。 ➤ 「刺し網体験ツアー」の新たなオプションとして「食体験」を追加し周知するとともに、海産物のインターネット販売の可能性を模索。 ➤ 「海辺を守る会」のアマモ場の保全・再生の活動の広報を支援し高校生等の参加を促すとともに、高校生が企画する「エコツアー」の実施を模索。	

<連携イメージ>



作成：一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会